参考資料

恩納村SDGs推進戦略

1. 戦略策定の背景

① SDGsとは

SDGsとは、2015年9月に国連本部で開催された「国連持続可能な開発サミット」において、193の国連加盟国の合意のもと採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」 および持続可能な開発目標 (SDGs; Sustainable Development Goals) を指します。

"no one will be left behind"(誰一人取り残さない)、"in larger freedom"(選択肢の多い世界)、"well-being"(よく生きられる世界を追求する)、"present and future generations"(世代を超えた持続的な価値を追求する)などを基本的な理念とし、「環境」「経済」「社会」に関する先進国と発展途上国双方が取り組むべき17の目標と169のターゲットを定めた、全人類共通のグローバルな目標となっています。

② SDGsを原動力とした地方創生の推進

一方でわが国では、東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、 日本全体の活力を上げることを目的とした「地方創生」の取り組みが進められて います。

SDGsで示されている17の目標や169のターゲットの達成に向けた取り組みは、日本の各地域における諸課題の解決に貢献し、地方の持続可能な開発、すなわち「地方創生」を推進する取り組みとなります。

このためわが国は、SDGsを地方創生に役立てるべく、SDGsの理念に沿った基本的・総合的取組を推進しようとする都市・地域の中から、特に、経済・社会・環境の三側面における新しい価値創出を通して持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市・地域を「SDGs未来都市」として選定しています。

③ 本村におけるSDGsの取り組み

本村は2019年、SDGs未来都市に選定されたことから、恩納村第5次総合計画における、環境、経済、社会の各分野にわたる様々な政策、また「サンゴの村宣言プロジェクト」の様々取り組みなどを統合、高度化し、各施策が有機的に結びつけていくことにより、より大きな効果の創出を目指していくこととなりました。

本戦略は、様々な取り組みの統合、高度化、有機的な結びつけを進めていくための方向性を示すものとしてとりまとめたものとなります。

1. 戦略策定の背景

(参考: SDGsの17のターゲット)





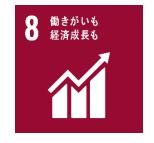






























戦略策定の背景

(参考:国による自治体SDGs推進の考え方)

○地方創生の深化に向けては、**中長期を見通した持続可能なまちづくりに取り組むこと**が重要 ○自治体におけるSDGsの達成に向けた取組は、地方創生の実現に資するものであり、その

取組を推進することが必要

自治体 SDGsの推進

- ✓ 将来のビジョンづくり ✓ 関係者(ステークホルダー)との連携
- ✓ 体制づくり
- ✓ 情報発信と成果の共有
- ✓ 各種計画への反映
- ✓ ローカル指標の設定

経済

三側面を統合する施策推進



環境

人々が安心して暮らせるような、持続可能なまちづくりと地域活性化を実現 地方創生成功モデルの国内における水平展開・国外への情報発信



(内閣府地方創生推進事務局資料(2019年3月)より)

- ○モデル構築に向け、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けた優れた取組を行う都 市を「SDGs未来都市」として国が選定。
- ○本村は今年度、「『サンゴの村宣言』SDGsプロジェクト」を提案し、SDGs未来都市に 選定。

① 「第5次総合計画」と「サンゴの村宣言」

本村の最上位の計画としては「恩納村第5次総合計画」があり、2012年度から 10年間の計画(2021年度まで)として、現在各種施策が推進されています。

また、2018年7月には「サンゴの村宣言」を行い、村民一人一人の自然環境に対する意識の向上を図り、本村の豊かな自然環境の保全と育成を行い、地域資源を活かした恩納ブランドの確立に向け「サンゴの村宣言プロジェクト〜世界一サンゴに優しい村〜」に取り組むこととしました。

このサンゴの村宣言プロジェクトは、恩納村第5次総合計画の各施策を連携して推進する重点施策の1つと位置付けられています。

② 本村の現状計画を高度化し「SDGs推進戦略」に

「サンゴの村宣言」の考え方は、SDGsの基本的な考え方と非常に共通点が多いことから、サンゴの村宣言プロジェクトをはじめとした取り組みを、SDGsの考え方、更には住民生活を向上させることや、本村の主要産業である観光を活性化させていくことの観点で高度化させ、更に関連する本村の各種計画や既存の施策の見直しや新規施策を取り込み、本村におけるSDGsの目標達成に向けた「(仮称)恩納村SDGs推進戦略」としてとりまとめています。

なお、本戦略の計画期間は2020年度~2030年度ですが、 2022年度から始まる新たな総合計画(恩納村第6次総合計画)へも内容を引き継いでいくことを予定しています。

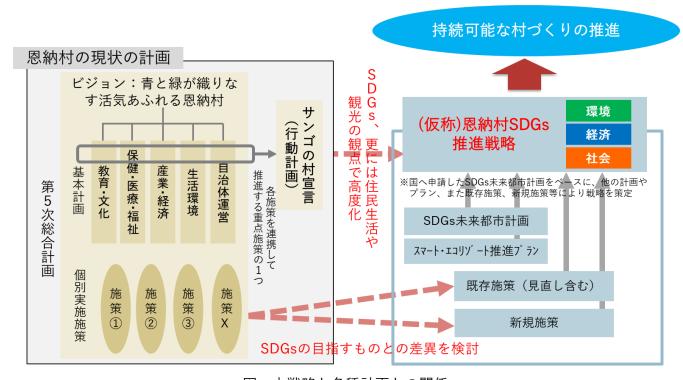


図 本戦略と各種計画との関係

3. 本村の現状・課題と対応方針

① 本村の現状

本村は本島中央部に位置し、美しい海を背景に、多くのリゾートホテルや観光施設が立地する沖縄観光の中核的エリアです。特に海浜エリアは、本村の中でも、美しいビーチに接し、青い海や空、水平線に沈む夕日を眺めることができる、沖縄の中でも人気のあるエリアとなっています。

しかしながら、海岸部の大型リゾートホテルは個々に立地しており、必ずしも海外のリゾートのように、観光客がビーチやマリンレジャー、ショッピング等、自由に地域での滞在を楽しむという過ごし方ができるような状況とはなっていません。

また、観光客の増加に反して、沖縄の観光産業においては深刻な人手不足や労働状況改善の必要性も重要な課題となっています。

② 本村の主な課題

本村における課題を関係者等へのヒアリングから整理しました。

環境的な面では赤土の流出等の環境への悪影響を及ぼす要因が存在すること、サンゴなどの環境への配慮が必ずしもなされていないことなどが挙げられます。

経済的な面では、観光客の増加に伴う諸課題(レンタカーによる交通事故、真 栄田岬への観光客の集中等)が発生していること、滞在日数の短さや消費単価の 低さなどが挙げられます。

社会的な面では、土地や家賃の高騰、村内での働く場の少なさ、病院やスーパー、交通手段といった日常生活に必要な施設等の少なさなどが挙げられます。

③ 対応方針

挙げられた課題を整理し、それらへの対応方針を、以下の3点に集約しました。

【環境:自然環境の保全と育成】

環境にとって悪影響を及ぼす要因にしっかりと対応するとともに、村民・観光 客双方の環境に対する意識を高めることで、本村のサンゴをはじめとする豊かな 自然を守り、育てていきます。

【経済:観光と住民の間のギャップ解消】

適正な観光客数を維持しながら、観光による本村への経済的・社会的効果を高めることで、村民・観光客の双方にとって満足度の高い、持続可能な観光地づくりを進めます。

【社会:村内で働く村民の増加】

雇用を創出し、誰もが村でいきいきとした生活が送れるようにすることで、将 来世代にとっても住み続けられる社会を形成していきます。

3. 本村の現状・課題と対応方針

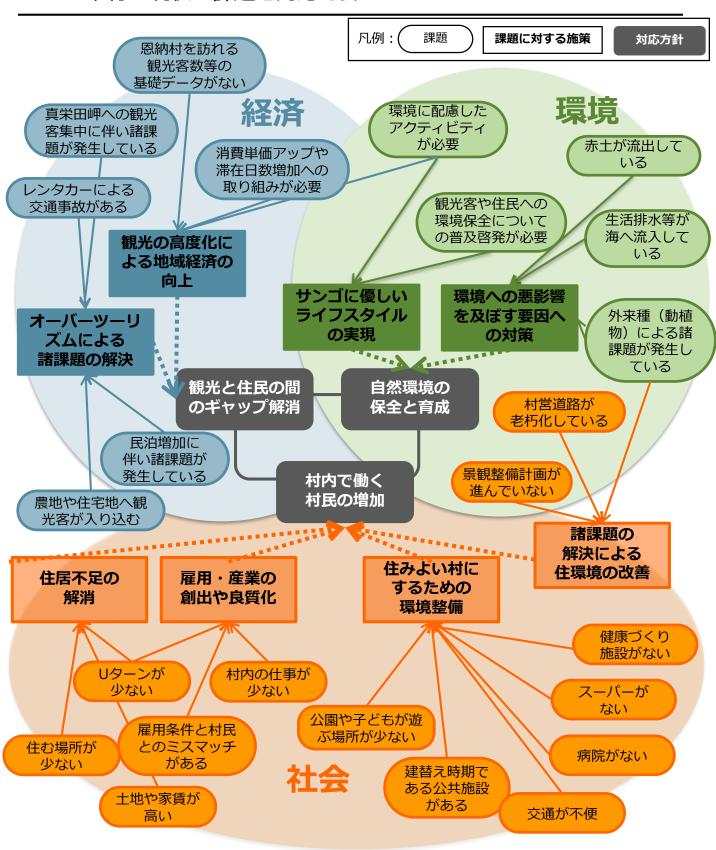


図 本村の主な課題と対応方針の関係

4. コンセプト・あるべき姿

① コンセプト

コンセプトは、サンゴの村宣言を踏まえ以下の通りとします。

『世界一サンゴと人にやさしい村』

(参考:サンゴの村宣言 宣言文)

恩納村は、風光明媚な自然環境に恵まれ、穏やかな暮らしぶりとともに国内有数の観光リゾート地として成長してきました。

健全で豊かな自然環境の保全は、村民が健康で文化的な生活を営む上でも 重要であり、この恵まれた自然環境を次世代に引き継いでいくことは、私たち の責務でもあります。

私たちは、改めて自然の恩恵なしでは生きていけないことを認識するとともに、自らの生活様式や社会経済活動のあり方を見つめ直し、行政・村民・事業者が一体となった、環境負荷が少ない持続的発展が可能な社会の構築に向け、自然環境に優しい地域づくりを目指すため、ここに恩納村を「サンゴの村」とすることを宣言します。

2018年7月21日

恩納村長 長浜善巳

② 本村の2030年のあるべき姿

本戦略が目標とするのは2030年であることから、その時点での本村のあるべき姿を以下の通りとします。

サンゴをはじめとする自然環境にやさしいライフスタイルを 村民が送ることが出来、環境と観光の共生が実現した、 活力あふれる持続可能な村となっている

(※資料3「SDGsを通してつくりたい恩納村の将来像」参照)

1環境

サンゴなど豊かな自然あふれる社会の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



造礁サンゴ類被度25% 以上の割合(30%)



赤土流出防止対策実施距離 及び面積(20,000m、100ha)

※()内は2030年目標値

(主な取組内容)

(1)環境に関わる定期的な観測と保全活動の推進

- ●海や河川等の定期的な水質調査を実施し、適切な状況であるか、サンゴ礁保 全再生活動の進捗がどうか等を観測していきます。
- ●赤土等の流出防止について、大規模なものだけでなく、小規模なものや個人 レベルのものも含めて、村内関係各部門が連携しながら対策に取り組んでい きます。
- ●大学・研究機関や企業等とのサンゴの調査や苗の植え付けなどでの連携を推進していきます。
- ●環境・生態系の維持・回復や安心して活動できる海域の確保など、漁業者等が行う水産業・漁村の多面的機能の発揮に資する地域活動を支援していきます。

(2)環境に優しい交通の推進

- ●地球温暖化への対策としてガソリン車から排出される排気ガスを削減するため、村内を循環するバス等を運行させるなど、公共交通の充実を図っていきます。
- ●村内で利用される自動車やバス等について、太陽光発電や風力発電なども利用可能な電気自動車等、環境に優しい自動車への転換を推進していきます。
- ●村内の公共施設や観光施設等において、村民や観光客が共同利用可能な自転車/電動アシスト付き自転車の設置を進め、自動車を使用しなくても村内の移動が容易な環境づくりを進めていきます。

1環境

サンゴなど豊かな自然あふれる社会の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



造礁サンゴ類被度25% 以上の割合(30%)



赤土流出防止対策実施距離 及び面積(20,000m、100ha)

※()内は2030年目標値

(主な取組内容)

(3)景観の保全・育成

- ●海岸および河川で構成される、本村の自然景観に調和する建築物や道路の景観保全・育成を進めていきます。
- ●本村の自然景観に調和しつつ、リゾート地域としてのイメージを高められるような景観づくりを進めていきます。

(4)環境に優しいエネルギーへの取り組み推進

●太陽光発電や風力発電などの自然(再生可能)エネルギーについて、本村に とって最適な取り組みを検討し、村内施設等での普及を推進していきます。

(5)サンゴをはじめとする自然環境保全のための仕組みづくり

- ●環境に優しいスキューバダイビングやシュノーケリングを推進する世界的な 仕組みである「Green Fins」を日本国内でいち早く導入していきます。
- ●本村の豊かな自然環境によって恩恵を受けている企業等に対しての、協賛の 募集や事業への支援などの仕組みを構築していきます。
- ●自然環境保全の取り組み等を進めていくための財源の一つとして、(仮称)環境税(持続的なむらづくり推進税)の導入を推進していきます。

②経済

サステナブルツーリズム(持続可能な観光)の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



労働力率[女性の就業率]) の向上(65%[52%]))



サンゴの苗付け型レジャーへの参加者の増加(10,000人)

※()内は2030年目標値

(1)観光に関する本村ならではの価値づくり

- ●サンゴの苗付け型レジャーなど、本村の特性を活かした独自性のある観光プログラムを開発していき、他地域との差別化を推進していきます。
- ●ワーケーション(まとまった休暇の合間で業務も一部行う観光スタイル)や ヘルスツーリズム(旅をきっかけに健康増進や維持、回復、予防に寄与する もの)など、新たな観光スタイルの動向を把握し、その対応を推進していき ます。
- ●環境に優しいスキューバダイビングやシュノーケリングを推進する世界的な 仕組みである「Green Fins」を日本国内でいち早く導入していきます。 (※①-(5)での記載と同様)

(2)特産品のブランド化

- ●近代化施設の導入等による経営基盤の整備を促進し、農水産物の生産供給 体制を強化することで、恩納村ブランドの確立と計画的・安定的に出荷でき る産地の形成を推進していきます。
- ●村内など限られた範囲で生産される産品の高い品質を保証すると同時に、 産品の地域性を消費者に伝える仕組みである「恩納村版ローカル認証」の導 入を推進していきます。
- ●観光リゾート地であるという地域特性を活かし、観光施設や飲食店、宿泊施設等での活用を奨励し地産地消を推進していきます。

②経済

サステナブルツーリズム(持続可能な観光)の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



労働力率[女性の就業率]) の向上(65%[52%]))



サンゴの苗付け型レジャーへの参加者の増加(10,000人)

※()内は2030年目標値

(3)持続可能な観光の実施拠点の整備推進

- ●「Green Fins」の導入にあわせて、スキューバダイビングやシュノーケリング目的の方々が多く集まる真栄田岬等において、本村の持続可能な観光の発信拠点として位置づけられ、また、村内外の方々の憩いの場となるような施設の設置を検討していきます。
- ●村内の交通量の減少や環境負荷の低減、また村内での移動の利便性の向上や 日用品等の買い物需要への対応ができ、本村の持続可能な観光の核となるよ うな交通機能と商業機能が複合した拠点の整備を検討していきます。

(4)適切な観光客受入れ対策の推進

- ●村外からのレンタカーによる来訪者が、意図せず集落内へ入り込んでしまう ことによる交通事故等のトラブルを抑制するため、立ち入り規制や観光スポットへの誘導等の対応を推進していきます。
- ●夏の観光シーズンなどの村外からのレンタカーが急増する時期に生じる、環境への影響や交通事故等のトラブルを抑制するため、情報提供などによる公共交通の利用への誘導を推進していきます。
- ●本村においても増加している民泊(個人宅に一室や一棟を宿泊施設として旅行者に貸し出すこと)について、近隣とのトラブルなどを減少させるため、制度が適切に運用されているかの確認や指導を促進していきます。

②経済

サステナブルツーリズム(持続可能な観光)の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



労働力率[女性の就業率]) の向上(65%[52%]))



サンゴの苗付け型レジャーへの参加者の増加(10,000人)

※()内は2030年目標値

(5)産業振興に関わる人材の育成

- ●農業・水産業を中心に新たな技術開発や新規事業の立ち上げ等に対する支援 を推進していきます。
- ●合同就職説明会の開催等、本村で就業したい人材を確保するための各種取組 みを推進していきます。
- ●本村に立地する人材を確保したい企業と、本村での就業を希望する人材とを 繋ぐ取り組みや、社会的・職業的自立のために必要な能力開発を推進してい きます。

3社会

将来世代の育成と全員参加型社会の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



高校進学率の向上 (100%)



1人当たり村民所得の向上 (3,200千円)



村議員選挙の投票率の向上 (70%)

※()内は2030年目標値

(1)SDGsに関する意識啓発の推進

- ●サンゴの村フェスタの継続開催やイメージキャラクター「Sunnaちゃん」 を活用した各種事業の展開などを通じて、村民および村外の方々に対するサ ンゴに関する意識啓発を推進していきます。
- ●将来世代である本村の子どもたちを主対象とし、本村に立地する沖縄科学技術大学院大学の自然環境やサンゴに関する研究内容を紹介する授業やセミナー等を開催し、更なる自然環境やサンゴへの意識の醸成を図っていきます。
- ●SDGsとは何か、本村がSDGsに関してどのように取り組んでいるかなどに ついてのセミナー等を様々な機会で実施し、意識啓発を推進していきます。

(2)多様な人材の活躍の推進(ダイバーシティの推進)

- ●若年層の女性に向けた様々な能力開発に関する支援制度の検討や、性別による採用差別を無くす、24時間保育所の設置を検討するなど、女性が活躍しやすい環境づくりを推進していきます。
- ●外国籍の方々、障がいを持つ方々、性的マイノリティ(LGBTQ*)の方々など、多様な人材が活躍できる場づくりを村内企業などと連携して推進していきます。

*L(Lesbian:レズビアン-身体の性は女性、心の性も女性、恋愛対象は女性)

G(Gav: ゲイ-身体の性は男性、心の性も男性、恋愛対象は男性)

B(Bisexual: バイセクシャル – 例えば身体の性が女性なら、心の性も女性、恋愛対象は両性) T(Transgender: トランスジェンダー – 例えば身体の性が男性なら、心の性は女性など) Q(Questioning: クエスチョニング – 心の性や恋愛対象が揺れ動くなど特定の枠にはまらない)

出典) 法務省資料より作成

③社会

将来世代の育成と全員参加型社会の実現

(優先的に目指すこと、及びその数値)



高校進学率の向上 (100%)



1人当たり村民所得の向上 (3.200千円)



村議員選挙の投票率の向上 (70%)

※()内は2030年目標値

(3)村を支える人材の育成

- ●村の小学生、中学生等の将来世代を主な対象として、サンゴや海に生息する 生物への関心が高まるような教材の購入・配布や、総合的な学習の時間での 学習の実施などを推進していきます。
- ●中学生等の将来世代を主な対象として、本村が取り組んでいる施策や財政状況について関心を持ってもらうような授業等を実施し、自らが暮らしている地域への関心を高めていきます。
- ●本村に立地する人材を確保したい企業と、本村での就業を希望する人材とを繋ぐ取り組みや、社会的・職業的自立のために必要な能力開発を推進していきます。(※②-(5)での記載と同様)

(4)すべての人にとって暮らしやすい村づくり (ユニバーサルデザインの村づくり)の推進

- ●村内に立地する各種施設について、村民および村外からの来訪者双方を意識 したバリアフリー化を推進していきます。なお、バリアフリー化の際には施 設のハード面にとどまらず、多言語での表記等のソフト面での対応も推進し ていきます。
- ●スキューバダイビングなどのマリンアクティビティや、各種の体験型観光プログラムについて、障がいのある方々をはじめ誰もが参加可能な観光プログラムの開発を推進していきます。

6. 重点的に進める取り組み

① 各側面を先導する取り組み

本戦略を実行するにあたり、環境、経済、社会の各側面を先導する取り組みを 以下の通り設定します。これらの取り組みは、SDGsという考え方を普及していく 際の認知、また他の側面への波及も大きいものと考えられます。

①環境

Green Finsの導入

(1) – (5)サンゴをはじめとする自然環境保全のための仕組みづくり)

②経済

恩納村版ローカル認証の導入(②-(2)特産品のブランド化)

3社会

SDGsに関する意識啓発(③-(1)SDGsに関する意識啓発の推進) **村を支える人材の育成**(③-(3)村を支える人材の育成)

- ①環境面での「Green Finsの導入」は、国内では本村が最初に取り組むという 影響力の大きさ、また②経済面での持続可能な観光の実現への効果も大きいもの と考えられます。
- ②経済面での「恩納村版ローカル認証の導入」は、農水産物のブランド化といった地域経済の活性化や雇用創出への効果も大きいものと考えられます。
- ③社会面での「SDGsに関する意識啓発」及び「村を支える人材の育成」は、SDGsの取り組みを進める上では基本となるものであり、人材育成は全ての側面へと波及していくものと考えられます。

② 各側面の取り組みを推進する体制

本戦略は様々な分野において取り組むことが必要となるため、村民・事業所・関係機関での一体的な取り組みにより事業を推進することが基本となります。

このため、これまで以上に関係者との繋がりを強めながら、「環境」「経済」「社会」の3側面を統合的に発展させていくための核となる機能(体制)を設置し推進していくこととします。